

心持の良い季節になってまいりました。金木犀の甘い香りが、安らぎのひとときをもたらしてくれます。

週末ごとにどこかでなにかイベントや祭りが行われています。子供の頃出かけた**祭り**では不思議なものを沢山見ました。

中でも目が離せなかったのは、ガマの油売り。「さあさ、お立会い」と滑らかな口上の後、スパッと刀で自分の片腕に傷をつける。

子供心にも「あっ！！血が出てる！本当に斬っちゃった！！」と随分驚いたものです。その後、やおら件のガマの油を塗りつけ「でも心配はいらぬひと塗りすれば、これこの通り。ピタリと止まる、血止めの薬とござりまする」なんとなく血が止まったような・・・

薬を分厚く塗ったので血が隠れたように見えるだけの気もするし・・・

何の変哲もない黒い紙を指で擦ると、あ～ら不思議モクモクと煙が・・・

柔らかい飴をお客様が望む形に自在に形作ってくれる飴細工・・・飽きることなく見続けたものです。

ガマの油とはガマガエルの分泌物を原料にした塗り薬とのふれ込みで、やけど、切り傷、への効能をうたったもの。

豊臣方と徳川方が戦った大阪夏の陣で、徳川方に従軍した筑波山腹の寺の住職が傷薬に用い、

後年江戸時代にガマの油で一儲けしようと思った男によって、その口上が考え出されたと伝えられているそうです。

そんな郷愁をそそるような**祭り**に最近はお目にかかっていませんが、冷やかに色々な出店を見て廻れる**祭り**は大好きです。

‘ 0 6 N o v . . .